

委託事業実施内容報告書

平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 事業の概要

事業名称	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2016
事業の目的	散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成28年度も以下の3つの目的で活動する。①昨年度に続き3市で「初級日本語集中講座」を行う。②一つの市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。③佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	佐賀県は外国籍住民の散在地域で、平成27年末現在9市に12の日本語教室が活動しているにすぎない。せっかく日本語教室を立ち上げたものの、外国人参加者がいないために日本人参加者も減って、教室の存続自体が危ぶまれるケースもある。散在地域においては点在して住んでいる外国人と日本語教室を結び付ける難しさがある。市報への掲載、チラシ配布だけでは情報が届かない現状を打破するための策を考えなければならない。
事業内容の概要	①「初級日本語集中講座」(以下、「集中講座」という):地域の日本語教室は、ほとんどが週1回の実施であり、学習者が日本語を習得するまでに時間を多く要すること、学習者の方が会得したい日本語能力とボランティアの方々が提供できる日本語教室の内容に少し隔たりがあり、学習者の希望に応えることが難しいといった課題を解決するため、日本語教育専門家が集中的に文法を中心とした日本語教室を開講する。この教室の目的は日常的に通う地域の日本語教室で日本語学習を継続的に行うことのサポートをすることであるので、「集中講座」の最終日に地域のボランティア教室の方に参加してもらい発表会を行い、地域の日本語教室のスタッフと学習者の橋渡しを行う。また、地域の日本語教室で「集中講座」の内容をスムーズに引き継げるように地域の日本語教室に「集中講座」の講師が出向き、フォローアップをする「継続学習指導」を行う。 ②「フォローアップ講座」:立ち上がって間もない日本語教室は、その存在を周知する方法が難しく、学習者が集まりにくい。学習者が少ないとスタッフのモチベーションも持続しづらいといった課題を解決するため、周知活動を含めた日本語教室の活性化につながる企画を「フォローアップ講座」の参加者と共に考える。また、日本語教室での実際の活動のやり方や運営の仕方も今講座で扱い、日本語教室の充実を図る。 ③『ガイドブック佐賀』の作成:佐賀に特化した教材がないことから、一般的な日常のガイドブックを利用したり、個々のやり方で佐賀での生活を説明するしかない現状を解決するため、佐賀県の特徴を盛り込んだガイドブックを作成し、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができるようにする。上記①「集中講座」及び②「フォローアップ講座」は地域の日本語教室の充実を図ることを目的として実施するもので、「集中講座」後のフォローとして、H27年度作成の「日本語ボランティア教室活動ブック」や今回の「ガイドブック佐賀」を各地域の日本語教室に提供することが目的達成のために必要なことと考える。「ガイドブック佐賀」作成後は、「外国人のための佐賀の生活理解講座」(デモンストレーション講座)を行い、地域の日本語教室で活用してもらうよう努める。
事業の実施期間	平成 28年 4月～平成 29年 3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	池上 順子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
2	有瀬 尚子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
3	貞松 明子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
4	早瀬 郁子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
5	馬場 三佳	佐賀市国際交流協会
6	間 斉子	神崎市企画課
7	寺崎 昇吾	吉野ヶ里町企画課
8	中島 禎文	伊万里市政策経営部国際交流室
9	小山 清美	神埼日本語教室
10	早瀬 博範	佐賀大学



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年7月10日(日) 16:00～17:00	2時間	伊万里市生涯学習センター	中島禎文、斉藤篤信、田中亮子、有瀬尚子	1. 伊万里市で開催する「初級日本語集中講座」について説明・検討 2. 伊万里日本語教室の現状についての報告
2	平成28年8月20日(土) 15:00～16:00	1時間	神崎市中央公民館	間斉子、久地井壽美子、中田、貞松明子、有瀬尚子	1. 神埼日本語教室の現状についての報告 2. 「日本語教室活性化フォローアップ講座in神埼」でできること、行政の協力依頼
3	平成28年12月2日(金) 17:00～19:00	2時間	佐賀大学	早瀬博範、池上順子、有瀬尚子、貞松明子、早瀬郁子、馬場三佳	1. 今年度の活動について、これまでの活動状況報告 2. これ以降の進め方についてアドバイスをいただく
4	平成29年2月16日(木) 15:00～16:00	1時間	神崎市役所	間斉子、小山清美、貞松明子	1. 「日本語教室活性化フォローアップ講座in神埼」を終えての感想・反省 2. 今後の活動、行政ができること

(2)事業の実施体制

中核メンバーは大学の非常勤講師として留学生への日本語教育に従事しているので、取組の中の①「初級日本語集中講座」においては全体のコーディネートだけでなく指導者として1日6時間の授業を担当する。②の人材養成の「フォローアップ講座」では、講師及び補助者として講座を運営する。コーディネーターとして、講座全体をコントロールして多方面にわたり日本語教室の運営の手助けをする。③「ガイドブック佐賀」の作成では、“カスタネット”メンバーと協力者が執筆を担当する。外国籍住民が一人でもわかるような編集スタイルにしたが、日本語教室での使用も考え、「外国人のための佐賀の生活理解講座」(デモンストレーション講座)を行った。関係機関である行政の方には、実施の後援をもらい、広報誌への掲載、後援団体としての明記、会場使用についての優遇をいただいた。ボランティア団体には、講座の案内や参加者の紹介など参加者確保への協力をお願いした。神埼日本語教室では教室活動の中に新規の講座受講者も参加させていただいた。今年度の運営委員会は佐賀大学の早瀬博範教授に参加をお願いした。事業全体を見て助言をいただくことにより、よりよい事業の実施につなげるためである。事業の最初と最後にと考えていたが時間が取れず、1回だけの開催となった。地方開催事業では、伊万里市と神崎市で開催できたが、近隣市の役場担当者には参加していただかず残念だった。

(3)地域における連携体制

行政との連携：佐賀県国際経済・交流課、(公財)佐賀県国際交流協会との協力により、佐賀県における外国籍住民の現状や支援の現状を把握でき、どの地区での講座開催が有効かを検討し、市町の担当職員とつないでもらうことができている。市町の行政担当課との連携により広報や会場使用についての便宜を図ってもらうことが可能となっている。なにより外国籍住民について今何ができるかを共に検討する機会を作れていることは大変有意義なことである。

地域日本語教室スタッフとの連携：取組①の「集中講座」は地域の日本語教室への助けになればと企画しているものであるが、地域の日本語教室スタッフの理解がなければ、「集中講座」単独事業となってしまう、意義が半減してしまう。地域の日本語教室のスタッフの皆様の理解と協力により、地域の日本語教室に通っている学習者を「集中講座」へ参加させてもらい、通常の教室にまた行ってもらったり、ニューカマーとして「集中講座」に参加された学習者が「集中講座」の内容を踏まえた上で、地域の教室に参加してもらっている。「フォローアップ講座」に関しても当団体からの提案を快く受け入れていただき、有意義な講座となるべく共に計画していく関係を作ることができている。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称： 初級日本語集中講座 in伊万里】									
目的・目標	日本語教育専門家による日本語を母語としない外国籍住民を対象とした「初級日本語集中講座」								
対象	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民								
取組の内容	・「1日6時間×6日（＋交流会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、伊万里市で開講する。 ・日本語基礎文法習得（丁寧体・普通体、複文、自動詞他動詞、敬語などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施する） ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行う。 ・その後、伊万里市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行った。（10月9日、12月18日、2時間×2回）								
実施期間	平成28年 9月 17、18、20、22、23、25日				曜日・時間帯		6日間(9:00 ～ 16:00)		
開催回数	全 38時間（1回 6時間 × 6回+発表会2時間）				開催場所		伊万里市民センター		
参加者	総数 10人 （日本語学習者 4 人、指導者・支援者 6 人など）				使用した教材・リソース		当団体”カスタネット”独自作成教材		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1	1	0	2	0	0	0	0	0
カリキュラム案活用	「安全を守る」を使って地震への対応について、「社会の一員となる」を使い、市役所での手続きについて学習した。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成28年9月17日(土) 9:00～16:00	6	伊万里市民センター	1	初級基礎文法の復習	名詞文、動詞文、形容詞文を確認する。 形容詞、動詞の活用が正しく使えて言えるようになる。 会話でよく使う「～んです」が適切に使えるようになる。		有瀬 尚子	無し
2	平成28年9月18日(日) 9:00～16:00	6	伊万里市民センター	2	名詞修飾とき	丁寧体と普通体の文のスタイルの理解 普通形を使って名詞を修飾できる。 複文で物や人の状況が言えるようになる。		有瀬 尚子	無し
3	平成28年9月20日(火) 9:00～16:00	6	伊万里市民センター	1	自動詞、他動詞 ～てしまう	自動詞他動詞の意味、概念の理解。 ペアになる自動詞他動詞を使って会話が適切にできるようになる。 物事が完了したときや、後悔、残念な気持ちが言えるようになる。		有瀬 尚子	無し
4	平成28年9月22日(木) 9:00～16:00	6	伊万里市民センター	2	複文応用	「～と、～たら、～ば」などの文型の理解。 正しく作れて、会話の中で適切に使えるようになる。		貞松 明子	無し
5	平成28年9月23日(金) 9:00～16:00	6	伊万里市民センター	1	授受	授受の概念を理解し、感謝の気持ちを相手に適切に使えるようになる。		貞松 明子	無し
6	平成28年9月25日(日) 9:00～18:00	8	伊万里市民センター	9	敬語体系 まとめ 発表会	待遇表現である尊敬語や謙譲語の体系を理解し、適切に使えるようになる。 授業で書いた作文を発表する。		有瀬 尚子	貞松 明子

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第6回 28年9月25日】 授業で文法を理解し、会話練習を行ったあと、テキストの練習問題をしています。カスタネットで作成したテキストはバインダー方式で自由に取り外しができるので、もう一度見たいところを切り離して見たりできます。片面だけの印刷で、今日学習した内容を書き込むことができるようになって います。 以前学習した内容を忘れないことがこの講座の利点です。一人で前のページを開いて、じっくり考えて書き込む人が多く、自律的な学習になっています。
--



○取組事例②

【第6回 28年9月25日】
最終日の発表会の様子です。1週間の授業で学んだ文を使い、自己紹介や国の食べ物など発表しました。事前に写真を用意して効果的な発表をしてくれました。、日本人ボランティアからも質問が出るなど活発な活動になりました。



(2) 目標の達成状況・成果

伊万里市の担当者やボランティア教室との連携がよく取れたことで、受講者は、日本語教室での継続した学習ができ、「初級日本語集中講座」で効率よく且つ効果的に日本語文法を学習できた。

地域に出向いて「初級日本語集中講座」を開くことで、車などの交通手段を持たない外国籍住民にとっては通いやすい環境だった。

受講者の感想

「参加いたす前、日本語文法は問題がたくさんありました。後で、日本語文法が聞き取れました。日本語で話すは、私の欠点なので、今、少し進歩したと感じました。」

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

1年に1回、1週間のこのコース日程に参加できるのが難しい人もいた。参加を希望しても仕事等の問題で全日程参加ができなかった。文法学習は「初級日本語集中講座」で、文字学習やなめらかな会話学習は地域の日本語教師室でという流れが出来上がり、日本語能力向上の効果は上がっているが、受講のチャンスが少ない点が課題である。今後、市の担当者と連携を組みながら、どうすべきか考えていく。

日本語教育の実施【活動の名称： 初級日本語集中講座 in神埼】									
目的・目標	日本語教育専門家による日本語を母語としない外国籍住民を対象とした「初級日本語集中講座」								
対象	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民								
取組の内容	・「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、神埼市で開講する。 ・日本語基礎文法習得 （名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施する） ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行う。 ・その後、神埼市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行う。（1か所 2時間×2回） ・神埼市については下記取組（日本語教室活性化フォローアップ講座in神埼）で継続支援を行う。								
実施期間	平成29年 1月 7、8日 3月4、5、12、18日					曜日・時間帯	7日間(9:00 ～ 16:00 / 9:00 ～ 12:00)		
開催回数	全 38時間（1回 6時間 × 6回+発表会2時間）					開催場所	神埼市中央公民館		
参加者	総数 9人 （日本語学習者 5人、指導者・支援者 4人など）					使用した教材・リソース	当団体”カスタネット”独自作成教材		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1	0	0	1	0	0	0	0	3
カリキュラム案活用	「目的地に移動する」を使って公共交通機関（バス）の利用について学習した。								

日本語教育の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年1月7日(土) 9:00～16:00	6	神埼市中央公民館	2	自己紹介 名詞文 動詞文	あいさつや簡単な自己紹介をする。数字、月日、時間、物の名前を学ぶ。名詞文、動詞文を理解し、簡単な文が作って言えるようになる。	池上 順子	無し
2	平成29年1月8日(日) 9:00～16:00	6	神埼市中央公民館	1	動詞文 助詞	時間の言い方がわかり、1日の行動を話すことができる動詞文を理解し、作って言えるようになる。助詞の用法を整理して確認する。	有瀬 尚子	無し
3	平成29年1月10日(火) 9:00～12:00	3	神埼市中央公民館	1	形容詞文	形容詞文を使って、物や人の様子や状況を言うことができるようになる。	貞松 明子	無し
4	平成29年3月4日(土) 13:00～17:00	4	神埼市中央公民館	3	普通体・普通形 ～んです	名詞文、動詞文、形容詞文を確認する。形容詞、動詞の活用が正しく使えて言えるようになる。会話でよく使う「～んです」が適切に使えるようになる。	有瀬 尚子	無し
5	平成29年3月5日(日) 9:00～17:00	7	神埼市中央公民館	2	名詞修飾・とき	丁寧体と普通体の文のスタイルの理解。普通形を使って名詞を修飾できる。複文で物や人の状況が言えるようになる。	有瀬 尚子	無し
6	平成29年3月12日(日) 9:00～17:00	7	神埼市中央公民館	2	自動詞・他動詞 ～てしまう	自動詞他動詞の意味、概念の理解。ペアになる自動詞他動詞を使って会話が適切にできるようになる。物事が完了したときや、後悔、残念な気持ちが言えるようになる。	有瀬 尚子	無し
7	平成29年3月18日(土) 13:00～18:00	6	神埼市中央公民館	5	授受表現	物のやりもらいや行為のやりもらいの文型を学ぶ。感謝の発話としての概念を理解し、言えるようになる。交流会ではボランティアとの対話活動が活発に行われた。	池上 順子	早瀬 郁子

(1+151:162)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 29年3月4日】 受講者は仕事をしている人でしたから、土曜日の午後や日曜日になりました。仕事で日本語を聞くことは多いので聞き取りはできますが、発話はなめらかではなく、発音も悪く聞き取りにくい状態でした。文法項目の学習もしながら、語彙や談話が日本人に通じるように、発音、イントネーションの練習なども実施しました。できるだけ受講者からの発話を促し、会話を楽しみました。
--



○取組事例②

【第6回 29年3月12日】 まわりの人から聞いた言葉の意味、文法の確認など積極的に質問してきました。聞いて覚えていた音と、実際に書くと違うことに気づかされたり、今まで使っていた待遇表現が適切だったのかどうか聞いてきたりと、生活していく中で言葉の疑問が解消されたようです。



(2) 目標の達成状況・成果

ある程度日本語は理解し、聞き取りだけはできる人が多かったが、自分の考え、意見をわかりやすく言えることができなかった。そういった受講者にも発話練習を通して、会話が少しずつできるようになったことは成果が出たと言える。 受講者の感想 「私は日本語のいろいろなことばをしりたいからもっとべんきょうします。日本語のべんきょうはあきらめません。」

(3) 今後の改善点について

ボランティア教室との連携がうまく取れず、受講者を多く呼び込めなかった。 働いている人の場合、1週間の日程を組むと受講ができなくなるので、やむを得ず土、日開催にし、期間が延びてしまった。 今後、集中講座の日程の組み方を検討していかなければならない。

日本語教育の実施【活動の名称： 初級日本語集中講座 in鹿島】									
目的・目標	日本語教育専門家による日本語を母語としない外国籍住民を対象とした「初級日本語集中講座」								
対象	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民								
取組の内容	・「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、鹿島市で開講する。 ・日本語基礎文法習得 （名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施する） ・最終日の交流会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行う。 ・その後、鹿島市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行う。（1か所 2時間×2回）								
実施期間	平成29年 2月 11、12、13、17、18、19日					曜日・時間帯		6日間(9:00 ～ 16:00)	
開催回数	全 38時間（1回 6時間 × 6回+交流会2時間）					開催場所		鹿島市民交流プラザかたらい	
参加者	総数 5人 （日本語学習者 2人 指導者・支援者 3人など）					使用した教材・リソース		当団体”カスタネット”独自作成教材	
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	パキスタン（ 1 人）								
カリキュラム案活用	「人とかかわる」を使って、名前を書いて自己紹介をするなどした。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年2月11日(土) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流 プラザかたらい	2	自己紹介 挨拶、数字、月、日 名詞文	挨拶ができ、自己紹介ができる。名詞文、動詞文の意味を確認し、活用など練習をする。		有瀬 尚子	無し
2	平成29年2月12日(日) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流 プラザかたらい	2	動詞文 助詞	動詞文の意味を確認し、活用など練習をする。動詞の分類ができ、1日の行動などが言えて、書くことができるようになる。		貞松 明子	無し
3	平成29年2月13日(月) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流 プラザかたらい	2	形容詞文 形容詞応用	形容詞文、動詞文の意味を確認し、活用など練習をする。		池上 順子	無し
4	平成29年2月17日(金) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流 プラザかたらい	2	存在文・所在文、 動詞文	物や人がどこにあるか、どこにいるか、位置詞を使って言えて、書けるようになる。動詞の分類ができ、て形の作り方がわかる。		貞松 明子	無し
5	平成29年2月18日(土) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流 プラザかたらい	2	動詞、辞書形、ない形	動詞の活用を学び、禁止、許可、などを学ぶ。		貞松 明子	無し
6	平成29年2月19日(日) 9:00～18:00	8	鹿島市民交流 プラザかたらい	5	普通体、普通形	丁寧体と普通体の文のスタイルの理解する。待遇表現を学び適切な使い方ができるようになる。		早瀬 郁子	有瀬 尚子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

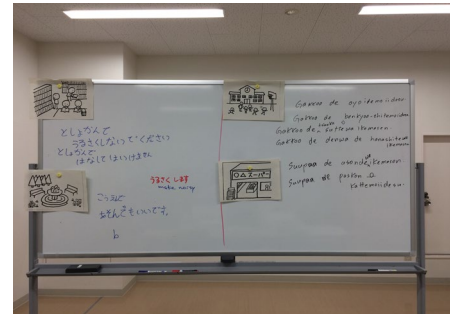
【第4回 29年2月17日】 鹿島市民交流プラザの部屋を借りて、講座を開催しました。この日は鹿島市や嬉野市の行政担当の方も視察に来られ、外国人参加者の熱心な学習態度に感心されていました。今日の視察については鹿島市報へも掲載されました。 外国人参加者は日本語があまり話せない人たちでしたので、まずは、文化庁のカリキュラム案を使って、あいさつ、自己紹介を行いました。その後、徐々に打ち解け和やかな雰囲気が進められるようになりました。文字カードや、カスタネットのイラストカードを使って文法項目の導入、及び練習をしました。



○取組事例②

【第5回 29年2月18日】

文法を聞いて理解するだけでなく、文を作らせることで運用力をつけさせています。一人一人に時間をかけて力を伸ばしていけることは、少人数クラスの利点でもあります。学習者によっては文字（ひらがな、カタカナ）が苦手な方がいます。この講座では文法の理解の方を優先させていることと短期集中で時間を取れないことで、文字学習は行わず、ローマ字表記でもいいことにしています。



(2) 目標の達成状況・成果

一人は来日して1年ほど経ち、少しの聞き取りはできるようになっていたが、初級文法が身につけていなかった。もう一人は来日したばかりでまだ日本にも慣れない様子だった。二人とも初級文法を体系的に学ぶことができ、この講座の目標は達成できた。

その後、鹿島日本語教室やその他の教室へも出向いて、熱心に勉強を続けている。

ボランティア教室運営がボランティアの方により、スムーズに継続できていることで、当講座が終わった後も外国人参加者への支援が途切れることがなく、長い支援や交流ができるようになった。

鹿島市、嬉野市の担当の方が視察に来られ、実際に学ぶ姿をみてもらったことで、今後の当講座の必要性や意義を理解していただけた。

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

人数が2人と少なかったが、散在地域である佐賀県で、チラシやHPなどを見て、参加してくれたことは、少しずつではあるが、日本語を学ぶ外国人が市内にもいるという認識が出てきているのではないかと感じた。今後も継続的に講座を開いて、市民の方々へ周知を行う。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語教室活性化フォローアップ講座in神埼】									
目的・目標	立ち上がって間もない日本語教室は、その存在を周知する方法が難しく、学習者もボランティアも集まりにくい。周知のための活動を含めた日本語教室の活性化につながる企画を受講者と共に考え実施し、また、日本語教室の活動の仕方も本講座で学んでもらい、日本語教室の充実を図る。								
対象	神崎市・吉野ヶ里町・みやき町及び周辺地域在住の一般市民、近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア								
取組の内容	講座参加者と共に企画を立て、神崎市近隣の地域住民や学習者への周知のために市町行政と連携したイベントを2回行った。また、教室活動を活性化させる講座を教室での実習を含めて行った。日本語ボランティア初心者のための入門講座は隣接する吉野ヶ里町で2回行った。（講座概要説明1回、企画・準備等6回、イベント実施2回、日本語ボランティア入門講座2回、実習前講座2回、教室での実践2回、講座終了後に日本語教室のフォローを1回）計画段階では、上記「集中講座」の意義を活かすため、神崎市で「集中講座」を行った後の「継続学習指導」も「フォローアップ講座」の内容の一つとして行う予定であったが、「集中講座」自体の開催が遅れたため、教室のフォローという形で1回参観を行った。								
実施期間	平成28年 8月20日～平成29年 1月28日					曜日・時間帯	土曜日（ 13:00 ～ 15:00 ）		
開催回数	全 42 時間（ 1回 2時間 × 14回） （ 1回 3時間 × 2回） （ 1回 4時間 × 2回）					開催場所	神崎市中央公民館 吉野ヶ里町中央公民館		
参加者	総数 <u>32</u> 人（受講者 16人） （日本語学習者 <u>11</u> 人、指導者・支援者 <u>5</u> 人など）					使用した教材・リソース	文化庁カリキュラム案教材例集 日本語教室活動ブック ガイドブック佐賀・災害編		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	6	0	0	1	0	0	0	0	4
	※日本語学習者は「実践①②」と「イベント①②」にのみ参加 ※「イベント①②」には地域の日本人が来場(2回で約50人)								
カリキュラム案活用	ボランティア教室の活動実践のために紹介し(実践の準備①②)、実際の「実践①②」の時間でコピーしたものを使用して外国人参加者との活動に使用した。								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名
1	平成28年8月20日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	3	佐賀県の現状を知る	講座の概要説明 佐賀県の地域日本語教育の現状		貞松明子	有瀬尚子
2	平成28年8月27日(土) 13:00～16:00	3	吉野ヶ里町中央公民館	11	日本語ボランティア入門編① 外国人との接し方	講座の概要説明(初参加者向け) 佐賀県の地域日本語教育の現状 「やさしい日本語」の紹介		貞松明子	池上順子
3	平成28年9月10日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	11	日本語教室活性化企画会議①	活動中の教室メンバー、講座受講者が共に、教室の活性化のために何をしたらいいか考えた(内容・日程など)		貞松明子	池上順子
4	平成28年9月17日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	5	日本語教室活性化企画会議②	10月22日に実施することにしたイベントについて詳細を決定。チラシ作成も受講者が行うことにし記載内容等を決定。		早瀬郁子	貞松明子
5	平成28年9月24日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	6	日本語教室活性化企画会議③	イベントの段取り、担当等を決定。チラシ・ポスターの配置も受講者とする。自発的な活動となるように誘導する。		貞松明子	有瀬尚子
6	平成28年10月1日(土) 13:00～16:00	3	吉野ヶ里町中央公民館	7	日本語ボランティア入門編② 外国語としての日本語	日本語を外国語として捉えることで何気なく使っている日本語を見直す。		貞松明子	有瀬尚子
7	平成28年10月8日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	7	日本語教室活性化講座①	文化庁教材例集・当会作成の活動ブック・ガイドブック佐賀を使用して教室活動の進め方を考えてもらう。		有瀬尚子	貞松明子
8	平成28年10月8日(土) 15:00～17:00	2	神崎市中央公民館	8	日本語教室活動実践①	神埼教室の学習者と講師が呼んだ外国人を相手に、前時間で学んだやり方で実践を行う。		貞松明子	有瀬尚子
9	平成28年10月15日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	7	実践①フィードバック	各受講者の実践についての感想をもとに総括し、外国人との活動に重要なポイントを指導。翌週のイベントの準備。		貞松明子	馬場三佳
10	平成28年10月22日(土) 13:00～17:00	4	神崎市中央公民館	9	イベント①	「世界のお茶パーティー」と銘打って教室のPRを行う。神埼教室の学習者がベトナム茶や菓子を提供して一般の参加者を喜ばせてくれた。		有瀬尚子	なし
11	平成28年11月5日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	4	日本語教室活性化企画会議④	イベント①の反省会と反省をもとにイベント②の企画を行う。より広く神埼教室を周知する方策を考える。		有瀬尚子	貞松明子
12	平成28年11月19日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	3	日本語教室活性化企画会議⑤	イベント②の企画。時間と場所・内容を決定。前回の反省をもとに来場者アンケートの実施を決める。		有瀬尚子	貞松明子
13	平成28年12月3日(土) 13:00～15:00	2	神崎市中央公民館	6	日本語教室活性化講座②	教材例集「医療機関で治療を受ける」を使って活動の仕方を考える。「ガイドブック佐賀」の使い方も考える。		貞松明子	有瀬尚子

14	平成28年12月10日(土) 15:00～17:00	2	神埼市中央公 民館	7	日本語教室活動実 践②	神埼教室近くの企業の協力を得て、技 能実習生を相手に前時間で学んだや り方で実践を行う。	貞松明子	有瀬尚子
15	平成29年1月7日(土) 13:00～15:00	2	神埼市中央公 民館	4	日本語教室活性化 企画会議⑥	次週に迫ったイベント②の準備。	貞松明子	有瀬尚子
16	平成29年1月14日(土) 13:00～17:00	4	神埼市中央公 民館	5	イベント②	「日本のお正月・お正月の遊び」と銘 打って教室のPRを行う。ボランティア の特技を生かしての活動が喜ばれ た。	貞松明子	有瀬尚子

17	平成29年1月21日(土) 13:00～15:00	2	神埼市中央公民館	3	講座のまとめ	これまでに行ったいろいろな活動について感想・意見を述べあう。神埼日本語教室の今後のあり方も考える。	貞松明子	有瀬尚子
18	平成29年1月28日(土) 15:00～17:00	2	神埼市中央公民館	5	講座後のフォロー	神埼日本語教室の参観を佐賀県国際交流協会職員と共に行った。終了後に話し合いの時間を持った。	有瀬尚子	貞松明子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 28年10月8日】
この日は13～15時に「日本語教室活性化講座①」を行って外国人との交流の仕方を考えた後、引き続き15時30分～14時30分の「実践①」に臨んだ。神埼日本語教室の学習者の他、佐賀市と伊万里市から中国人の協力者が来てくれて、講座受講者と交流の時間を持った。受講者は「カリキュラム案教材例集」や「日本語ボランティア教室活動ブック」などを使って交流活動を行い、外国人といろいろ話せて楽しかったという感想を持った。協力者は比較的日本語が分かる方たちだったので、話の内容も深い物になったようだ。



運営委員会(神埼)

○取組事例②

【第16回 29年1月14日】
イベント②を開催した。受講者は13時に集合して準備を進め、14時から16時まで「日本のお正月・お正月の遊び」という内容のイベントを神埼市中央公民館内のいつもの教室を会場に行った。会場の前に図書室があり、そこから出てきた親子連れを主に勧誘した。チラシを見て来場した方もいた。絵本の読み聞かせから始まり、中国人留学生から中国のお正月について話を聞いた。その後、福笑いや坊主めくりなどの日本のお正月遊びを楽しんだ。楽しかったという感想の他、「中国の人と始めて話した」という言葉があり、イベントの効果を感じた。ただ、神埼日本語教室の存在を知らない人ばかりだったので、周知活動の不足を改めて感じた。



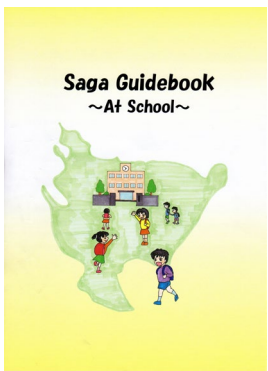
(2) 目標の達成状況・成果

今年度の「日本語教室活性化フォローアップ講座」では3つの活動を行った。①日本語ボランティア初心者のための「入門講座」②教室でどのように活動したらいいか考える「活性化講座」と「実践」③教室の周知のための「イベント」である。①②は昨年度の鹿島市でも行い、ある程度の評価を得、今年度の神埼でもアンケート結果が示すように同様であった。目玉は③で、受講者と一緒に何が出来るか考え、イベントを行うことで教室の存在をアピールして、ボランティアも外国人学習者も増やすことを目論んでいた。しかし、結果として、神埼日本語教室に新しい仲間を増やすことはできず、教室の存続自体が、相変わらず風前の灯火であることに変わりない。活動中のボランティアの意識改革や自分たちでできることがあるとわかってもらえたことなど、成果もあるが、実数としてボランティア・学習者を増やせなかった。

(3) 今後の改善点について

・新聞掲載が遅れてしまったにもかかわらず、新聞を見て問い合わせしてくれた方が多く、メディアの力を改めて感じた。講座開催のメディアへの対応を早めに行い、1つでも多くのメディアに取り上げてもらえるようにする。
・教室の存在を周知するためのイベントを講座受講者と共に考えて実施したが、イベントでのアンケートで教室の存在を知らない市民が非常に多いことがわかった。活動中のボランティアと共にまずイベントを行い、そこで講座受講者を勧誘する方が周知に繋がるのではないか、という意見が出た。講座の骨組みは変えずに、順序を変えてみるのがいい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：ガイドブック佐賀～自然災害・事故・病気編～／～学校編～】			
目的・目標	佐賀県の特徴を盛り込んだガイドブックを作成することで、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができるようにする。		
対象	佐賀県に住む外国籍住民および日本語教室の日本語ボランティア 小学校に通う子どもを持つ外国籍住民		
教材の内容	①自然災害・事故・病気編…佐賀県に多い台風や水害などの自然災害に対する対策、火事や盗難などの緊急事態への対応、病気になったときの対応の仕方や症状など、地域情報を織り込んだ教材を作成した。 ②学校編…差が県に編入する児童を持った外国籍住民が、教育制度や学校生活等を理解することで、安心して子どもたちを学校に送れるようにする。佐賀の学校情報を織り込んだものを作成した。		
実施期間	平成28年6月～平成29年3月	成果物のリンク先	http://1st.geocities.jp/castanetsnihongo/
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回 2時間 × 15 回 = 30 時間分	教材の頁数	自然災害・事故・病気編 34ページ 学校編 31ページ
カリキュラム案活用	01 医療機関で治療を受ける 活動2何科に行きますか、ことば・表現1 体の部位などの名称、 02 薬を利用する 04 自己に備え、対応する 05災害に備え、対応する		
教材の活用方法	1. 外国籍住民に教材を配布し、自学できるような構成にした。 2. 日本語教室での対話活動教材として利用する。 3. 編入生や新入学生を持つ保護者の講座を開催し、その教材として利用する。(平成25年2月25日第1回実施済)		
今後の活用の予定	1. 「ガイドブック佐賀～生活編～」の作成及び活用 2. 「ガイドブック佐賀～学校編～」の中国語版の作成、及びこの教材を使った定期的な講座の開催		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成28年度も以下の3つの目的で活動する。①昨年度に続き3市で「初級日本語集中講座」を行う。②一つの市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。③佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・全体を通しての検証はできていないが、①と②に関してはアンケート等でそれぞれの受講者にほぼ満足していただけたことがわかる。③については教材作成に時間がかかり、完成が事業期間ギリギリになってしまったので、未検証であるが、「学校編」に関しては4月から小学校に入学する子供を持つ外国人の母親に集まっていただき、「ガイドブック佐賀・学校編」を使って「保護者説明会」が行えた(平成29年2月25日)。参加者には好評であった。「災害編」は「日本語教室活性化フォローアップ講座in神埼」での実践回で受講者に使用してもらった。アンケートにもあるように、使える内容であると言える。③に関しては今後日本語教室で使用したり、外国人の方々に見ていただくことで、佐賀県での生活に役立てていただく。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・カリキュラム案は地域の日本語教室では欠かせない内容が多く含まれているので、それぞれの活動で使用させていただいた。①では「安全を守る」「社会の一員となる」「目的地に移動する」などを使用した。バスの乗り方は、散在地域に住んでいるとなかなか乗らないので、出来るようになることで自力で教室に来られるようになる。②では活動の仕方として使わせていただいた。③では「医療機関で治療を受ける」「災害に備える」などで参考にさせていただいた。
・写真はわかりやすいが、「病気の症状」など、手書きの絵はわかりにくいものがあった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・①と②は開催する場所が佐賀市以外のところなので、市役所・町役場の担当者と連絡を取り合い、会場の確保・市報等への掲載・チラシの配置などで協力していただいた。①の鹿島市での講座では、担当者が講座の見学に見え、市報に掲載していただいた。②では実践回の学習者確保に当たって、佐賀県国際課の協力で、神埼市内の企業と連絡が取れた。
・③では、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会はもとより、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会・小学校教諭の協力も得られた。今後、ホームページにアップしていただく予定である。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・①②では、開催市及び隣接市町の協力を得て、市報に掲載していただいた。また、チラシを関係各所に配置していただいた。②では、佐賀新聞に募集案内を掲載していただいた。
・成果の発信は主に③の「ガイドブック佐賀」に関してであるが、当会のホームページに掲載するだけでなく、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県教育委員会(学校編)のホームページに掲載していただく予定である。冊子として印刷したものは、佐賀市市民課窓口や佐賀市教育委員会に置いていただき、転入外国人に配布していただく。

(6) 改善点、今後の課題について

・①と②に関して、講座の周知が難しかった。開催地域の担当者の意識・熱意の差も感じられた。今後は、市役所担当者とメディアへの働きかけを「早い時期から」「強く」行うことが大切だと思う。
・③は取組開始時期は比較的早かったが、完成まで手間取ってしまった。イラストの問題もあり、全ての完成が遅れた。翻訳版(英語のみ)を作る計画が浮上し、計画の内容をやや変更せざるを得なかった。次年度は中国語・韓国語・ベトナム語訳なども念頭に入れながら、今年度できなかった「生活編」に取り組みたい。

(7) その他参考資料